

## 第21回 九州地区聴覚障害教育研究大会（沖縄大会）開催要項

1. 大会名称 平成28年度 第21回 九州地区聴覚障害教育研究大会（沖縄大会）

2. 大会主題 「聴覚障害教育の新たな展開を目指して」  
～社会情勢の変化や多様化する子どもの実態を踏まえた指導実践の工夫～  
(設定理由)

第19回大分大会、第20回福岡大会は、全日聾研佐賀大会のプレ大会として「子どもたちの生きる力を育むための個に応じた指導を目指して」という同一の大会主題で開催され一定の成果を得た。これまでの研究の成果を踏まえながら、聴覚障害教育について社会情勢の変化に合わせ、さらに専門性を高めていくことや多様化する子どもの実態を踏まえた指導実践の工夫が必要と考えられる。

平成19年度から障害の重度化や重複化、多様化の状況に障害種を超えて対応するとして特別支援学校制度がスタートし10年目となった。近年では、インクルーシブ教育システム構築へと国の施策が動き出し、障害のある子どもの教育の一層の充実のための合理的配慮やその基礎となる環境整備の考え方も次第に浸透しつつある。また、このような動きとも関連しながら「手話言語法」制定を求める機運も広がりつつあり、聴覚障害児・者を取り巻く社会情勢の変化も著しい。さらに、補聴器性能の向上や人工内耳装用の普及による子どもたちの聞こえの実態の多様化とともに、他方では重複障害学級の在籍割合の増加も目立ってきている。個人差はあるものの聴覚を活用し、口話中心のコミュニケーションの子どもがいる一方で、ほとんど手話のみでのコミュニケーションの子ども、聴覚障害と知的障害を併せ有する子どもや発達障害を併せ有する子どもなど、多様な実態の子どもたちが在籍する状況が各ろう学校において見られるようになってきた。これからの聴覚障害教育においては、多様化した幼児児童生徒一人一人の実態を踏まえ、適切な指導と必要な支援を行うことが求められる。

そこで本大会においては聴覚障害教育の専門性の継承、発展を目指して指導実践を工夫していきたい。さらに近年の社会情勢の変化や障害の重複化、多様化に対応した指導・支援のあり方及び聴覚障害児への合理的配慮など、聴覚障害教育の新たな展開を目指した実践の取り組みについて共に考え、学び、深めていくことにより、専門性の一層の向上を図りたいと考え、本主題を設定した。

3. 会 期 平成28年11月17日（木）～18日（金）2日間

4. 会 場 1日目：(公開授業・指定授業・研究協議会・分科会)  
沖縄県立沖縄ろう学校 北中城村屋宜原415  
：(懇談会)  
かりゆしアーバンリゾート・ナハ 那覇市前島3-25-1

2日目：(全体会・記念講演)  
沖縄県立博物館・美術館 講堂（3F） 那覇市おもろまち3-1-1

5. 主 催 九州地区聴覚障害教育研究会

6. 主管校 沖縄県立沖縄ろう学校
7. 後援 九州地区聾学校長会 沖縄県教育委員会 沖縄県特別支援学校長会  
公益財団法人日本教育公務員弘済会沖縄支部
8. 参加対象者 教育関係者（教員、保育士等）及び療育・施設関係者（保健師・言語聴覚士等）  
学生（大学生、専門学校生等）
9. 大会参加費 1,000円（会員） 1,500円（会員外）

## 10. 大会日程

前日：11月16日（水）

会場： 沖縄ろう学校

	受付	分科会助言者・ 責任者打ち合わせ会
	14:30 ～ 15:00	15:00 ～ 16:30

※座長、運営責任者は打ち合わせ終了後、解散

1日目：11月17日（木）

会場： 沖縄ろう学校 かりゆしアーバンリゾートホテル・ナハ（教育懇談会）

受付	公開授業 ※1	指定授業 ※2	研究協議会	昼食 寄宿舍 見学 ※3	分科会 レポート発表・研究協議・ 指導助言 13:40～17:00 (200分)	移動 休憩	教育 懇談会 18:30
8:45 ～ 9:00 (15分)	9:00 ～ 9:50 (50分)	10:00 ～ 10:50 (50分)	11:10 ～ 12:40 (90分)				

※1 幼 9:00～9:40 小 9:00～9:45

※2 幼 10:00～10:40 小 10:00～10:45

※3 昼食時 12:40～13:40に寄宿舍見学も可能

2日目：11月18日（金）

会場： 沖縄県立博物館・美術館 講堂（那覇市おもろまち）

受付	全体会 開会行事 総会	講演会	閉会 行事
9:15 ～ 9:30	9:40 ～ 10:20 (40分)	10:30 ～ 12:00 (90分)	10分

## 11. 開閉会式等の式次第

1 1 月 1 8 日 (金)			
全体会		記念講演	閉会行事
開会行事 9:40~10:00	総会 10:00~10:20	10:30~12:00	12:00~12:10
1 開会のことば	1 開会のことば	記念講演	開会のことば
2 研究会会長挨拶	2 会長挨拶	演題	大会の総括
3 来賓挨拶	3 議事選出	『聴覚障害教育で求められること』	閉会のことば
4 来賓紹介	4 議事事項		
5 閉会のことば	平成27年度会務報告	講師	
	平成27年度決算	庄司 美千代 氏	
	監査報告	文部科学省	
	平成28年度役員紹介	初等中等教育局	
	平成28年度予算	特別支援教育課	
	5 閉会のことば	特別支援教育調査官	

## 12. 記念講演

(1) 演題： 「聴覚障害教育で求められること」

(2) 講師： 庄司 美千代 氏

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官

### 【講師プロフィール】

学歴			
昭和62年	3月	山形大学 教育学部	小学校教員養成課程 修了
平成8年	4月	上越教育大学 大学院	学校教育課 障害児教育専攻 入学(現職研修として)
平成10年	3月	同上	修了
職歴			
昭和62年	4月	酒田市立宮野浦小学校	教諭
平成2年	4月	山形県立山形聾学校	教諭
平成19年	4月	山形県教育庁 義務教育課	特別支援教育室 指導主事
平成24年	4月	独立行政法人 国立	特別支援教育 総合研究所 主任研究員
(「聴覚障害教育における教科指導及び自立活動の充実に関する実践的研究 －教材活用の視点からインクルーシブ教育システム構築における専門性の継承 と共有を目指して－」の研究代表者)			
平成27年	4月	文部科学省 初等中等教育局	特別支援教育課 特別支援教育調査官

### 13. 公開授業・指定授業一覧

(1) 公開授業【11月17日(木) 9:00~9:50】※学部によって終了時間は異なる。

学部	学年・学級	教科等	単元(題材)	会場	授業者
幼稚部	ぱんだ・うさぎ	あそび	「きょうもげんきいっぱい」	幼ぞう	中島貴子
小学部	1年1組	算数	「たしざんとひきざん」	小1-1	新垣英子
	2年1組	国語	「わにのおじいさんの たからもの」	小2-1	當間祥子
	3年1組	社会	「工場で働く人と仕事」	小3-1	比屋根勇太
	4年1組	国語	「二つのことがらをつなぐ」	小4-1	砂川侑里
	5年1組	社会	「食糧生産を支える人々」	小5-1	宇根底誠
	あおぞら学級 (重複1,3,5年)	国語	「これ なあに？」	小あおぞら	大嶺有毅 新里香
中学部	1-1	国語	「説明」	中1-1	大城睦
	2-1	英語	Lesson5 「Uluru」	中2-1	武富誉子
	3-1	技術	情報 「ムービーメーカーでの ビデオ編集」	中3-1 PC室	仲里亮
中・高	中・高重複	体育	「テニスボール」	体育館	新垣聖子
高等部	2-1	自立活動	「こんな時どうする?~いろ んな場面でのコミュニケー ションを考えよう!」	高1-1	石川陽子 神谷文子
	3-1	社会	「裁判所と人権保障」	高3-1	松羽泰代

(2) 指定授業【11月17日(木) 10:00~10:50】※学部によって終了時間は異なる。

学部	学年・学級	教科等	単元(題材)	会場	授業者
幼稚部	ぱんだ うさぎ	あそび	「ごっこあそび」	幼 プレイルーム	上原久美子
小学部	6年1組	算数	「拡大図と縮図」	小6-1	米須嘉寿子
	にじ学級 (重複5,6年)	国語	「ことばであそぼう」	小にじ	石川清智
中学部	1-1	自立活動	「地域や社会生活を考える」	中2-1	渡部英樹
	2-1				
	3-1				
高等部	3-1	英語	Enjoy Communication Today's Special 「コミュニケーションを 楽しもう」~本日のおすすめ~	高2-1	新崎真理子

#### 14. 学部別研究協議会

- |             |         |
|-------------|---------|
| ① 指導・助言者の紹介 | ④ 質疑応答  |
| ② 学部研究発表    | ⑤ 研究協議  |
| ③ 授業者による自評  | ⑥ 指導・助言 |

学 部	研 究 主 題	指 導・助 言 者	会 場
幼稚部	「聴覚障害幼児のあそびを育てるための保育実践の工夫」 ～ごっこあそびと保護者支援を通して～	沖縄県立鏡が丘特別支援学校 教頭 大城 麻紀子 氏	幼稚部
小学部	一般学級 「学習言語の習得を目指した授業づくり」 ～聴覚補償と情報保障に配慮した指導の工夫～	文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 庄司 美千代 氏	視聴覚室
小学部	重複学級 「生活言語を豊かにする授業づくり」 ～聴覚補償と情報保障に配慮した指導の工夫～	福岡県立福岡高等視覚特別支援学校元校長 言語聴覚士 松原 太洋 氏	小集会室
中学部	「言葉を豊かにし表現力をはぐくむコミュニケーション活動を目指して」	福岡県立筑後特別支援学校 副校長 北里 純二 氏	被服教室
高等部	「社会参加・自立に向けて」 ～コミュニケーション力を高めるための指導・支援の工夫について～	沖縄県立沖縄ろう学校 元校長 沖縄聴覚障害者情報センター 施設長 真謝 孝 氏	音楽室

#### 15. 分科会

分科会名	テーマ	指導・助言者	責任校	発表校	記録	会場
1 ことば 「国語」	表現力や伝え合う力、理解する力を高める国語の指導について考える	沖縄県立沖縄ろう学校 元校長 沖縄県聴覚障害者 情報センター施設長 真謝 孝 氏	佐 世 保	長崎 佐世保 佐賀	福岡	視聴覚室
2 基本問題Ⅰ 「早期教育・ 幼稚部教育」	個々の実態に応じたコミュニケーションの向上を目指した指導支援のあり方について考える	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 庄司 美千代 氏	鹿 児 島	鹿児島 都城 久留米	大分	幼稚部
3 基本問題Ⅱ 「重複障害 教育」	障害が重度化・多様化する中で、個々の障害の状態や特性に配慮した具体的な支援のあり方について考える	沖縄県立鏡が丘特別支援学校 教頭 大城 麻紀子 氏	福 岡 高 等	鹿児島 福岡高 久留米	久留米	小集会室



**第2分科会 基本問題Ⅰ「早期教育・幼稚部教育」**

指導・助言者： 庄司 美千代

運営責任者： 福永 顕一

運営責任校： 鹿児島県立鹿児島聾学校

テーマ	「個々の実態に応じたコミュニケーションの向上を目指した指導支援のあり方について考える」	
発表校	発表者・タイトル	内容
鹿児島	山下 尚子 「乳幼児教育相談の取組」	聴覚活用に配慮した保育を通じた子育て支援の報告を行う。
都城	西森 優子 「より豊かなことばと心の育成を目指したコミュニケーション活動を主とした指導・支援の在り方」 ～「話し合い」活動を中心に～	学級や合同での活動のうえに話し合い活動を週1回実施し、幼児の変容を確認して、コミュニケーションの基礎となる発信力、受信力、会話を展開する態度等を向上させる指導・支援について検討・実践を重ねる。
久留米	福田 絵里加 「幼児の伝え合う力を育むための合同保育の実践について」	障害が重複化、多様化しており、言語習得にひらきが見られる幼児に対して、本校で行っている合同保育の実践を中心に、幼児同士の伝え合う力を育むための指導方法や幼児への支援について考える。

**第3分科会 基本問題Ⅱ「重複障害教育」**

指導・助言者： 大城 麻紀子

運営責任者： 田中 一嘉

運営責任校： 福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

テーマ	「障害が重度化・多様化する中で、個々の障害の状態や特性に配慮した具体的な支援のあり方について考える」	
発表校	発表者・タイトル	内容
鹿児島	川畑 俊大 「ICT活用」 ～生活単元学習を通して～	本校小学部では児童に確かな学力、コミュニケーション力を定着させるため、有効な手立てとしてICTの活用に着目して「わかる授業づくり」に取り組んでいる。重複障害学級においては、生活単元学習の授業づくりを進めている。その実践を報告する。
福岡高等	小野 直美 「本校の重複障害生徒の受入態勢について」	高等学校に準ずる教育課程で学ぶ生徒が全校生徒の9割以上を占める本校における重複障害生徒の受入態勢の構築や学習環境の整備等について報告する。
久留米	尾畠 美紀 「個々の特性に応じた生活単元学習の実践について」	障害が重複化・多様化する中で、本校に入学してきた全くタイプの異なる1年生に対して、生活単元学習の実践を中心に、個々の障害の状態や特性に配慮した具体的な支援の在り方について考える。

**第4分科会 教科① 文系+実技「体育」**

指導・助言者： 北里 純二

運営責任者： 松浦 真

運営責任校： 福岡県立小倉聴覚特別支援学校

テーマ	「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける体育学習のあり方について考える」	
発表校	発表者・タイトル	内容
熊本	黒川 裕子 「高等部一般学級と重複学級での運動への興味・関心を高める授業づくり」	一般学級における補強運動と重複障がい学級におけるサーキットトレーニングやタオル体操などの体づくり運動について。また、学習カードを活用した取組について。
都城	英 隆史 「小中高一貫教育の中でさくらっ子の体力向上に取り組もう」 ～体育科を中心に、組織的、機能的に取り組む体力向上のための取組の工夫～	職場や地域のスポーツ活動に積極的に参加している卒業生もいる中、スポーツ活動に参加できない生徒もいる。本研究では、小・中・高一貫教育の中で生涯に渡ってスポーツ活動を楽しむための基礎となる体力の向上を目指し、各学部、家庭と連携しながら実践に取り組んだ。
小倉	久保 智章 「生涯体育を見据えた学校における指導について」	学校における体育の授業カリキュラムの工夫と部活動を通して、生涯にわたって運動に親しむことができる資質を養うための実践について。また、外部指導者による部活動の活性化と技術の向上による生徒の意識の高まりについて。

**第5分科会 教科② 理系+実技「理科」**

指導・助言者： 濱元 伸

運営責任者： 原田 竜子

運営責任校： 福岡県立福岡聴覚特別支援学校

テーマ	「意欲的・主体的に学習に取り組むための学習指導の工夫について考える」	
発表校	発表者・タイトル	内容
長崎	伊藤 善弘 「縦断的グループによる理科合同学習の成果と展望」	本校は、科学に対する学習意欲の一層の喚起と児童生徒のスキルアップを図ることを目的として、大学の訪問授業を中心とした、体験型理科実験週間を設けている。本活動を通じ、少人数課題である共同学習が実施できたことから得られた効果などについて報告する。
福岡	新堀 照雄 「生徒が主体的に学習に取り組むための学習指導の工夫」 ～実験結果から考察する学習活動を通して～	生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、実験の予想や考察をする活動での手だての工夫を行い、単元のまとめを生徒自身で作らせた。その学習指導についての実践報告を行う。

直方	上田 滋寛 「聴覚障害児童が進んで表現する力を高める指導法の研究」 ～教材・教具と発表する場の工夫を通して～	聴覚障害を有する児童が自ら進んで表現することができるように、どのような教材・教具を用いればよいか、また、授業や活動等でどのように発表する場を設ければよいかを個々の児童や学習グループ等の発達段階に応じて、活動の形態等を工夫した指導を行った。
----	--	---

<b>第6分科会 自立活動「障害認識」</b>		
指導・助言者：松原 太洋		運営責任者： 高橋 直樹
運営責任校：宮崎県立都城さくら聴覚支援学校		
テーマ	「社会情勢や子どもを取りまく環境の変化を踏まえ、障害認識を深める指導・支援のあり方について考える」	
発表校	発表者・タイトル	内容
延岡	山本 祥子 「障害認識を深める指導・支援のあり方について」	聴覚障害児が自立した生活を送るためには、聴覚障害によって引き起こされる困難な場面に対処する力を育むことが重要であると考え、そのためには子どもたちの障害認識を深める指導・支援が必要であり、そのあり方について研究する。
福岡高等	久保 大祐 「聴覚障害のある教師として考えていること」	高等部を卒業するまでに、生徒に身につけさせるべき資質や社会参加に当たっての生徒の不安や課題、求められる教師の役割等について、聴覚障害のある教師の目線から報告する。
大分	河津 知子 大石 恵子 「自己肯定感を育むための子どもに寄り添った支援のあり方について」 ～「話し合い活動」の実践を通して～	それぞれの生徒がありのままの自分を受け入れ、聾者としてのアイデンティティを確立するために、他者の考えを知りお互いを受け入れた上で自分の考えを表現できるよう自己肯定感を育むことが重要であると考え、「話し合い活動」を実施した。1年目は高等部のみ、2年目は中高合同「話し合い活動」の報告。

### 17. 各種締切・送付先等

	申込・送付締切	振込期限	申込・送付先
分科会発表レポート	9月30日（金）		沖縄県立沖縄ろう学校内 九聴研沖縄大会事務局 （九聴研用アドレス） <a href="mailto:teach07@okiro-sh.open.ed.jp">teach07@okiro-sh.open.ed.jp</a>
大会参加申込 弁当申込	6月24日（金） 第一次 8月26日（金） 第二次	9月30日（金）	

## 18. 大会事務局及び連絡先

平成28年度 第21回 九州地区聴覚障害教育研究大会（沖縄大会）事務局

沖縄県立沖縄ろう学校

〒901-2304 沖縄県北中城村字屋宜原415

TEL 098-932-5475 fax 098-932-8248

E-mail [teach07@okiro-sh.open.ed.jp](mailto:teach07@okiro-sh.open.ed.jp)

担当 野村 まき子